

平成 28 年度 弘前学院大学看護学部
授業評価報告書

平成 29 年 3 月 16 日
弘前学院大学看護学部 FD 委員会

I. はじめに

授業方法の改善を図ることを目的として、在学生に対し専任教員の講義、演習についてのアンケート調査を実施した。その概略について報告する。

II. 方法

無記名の質問用紙によるアンケート方式で実施した。質問用紙は授業終了後に配布し、事務室前の専用ボックスに各自投函させ、アンケート回収とした。設問項目は、大きく2つ設けた。「学生自身に関すること」では、授業で扱う内容への関心、授業に対する取り組み方、授業内容の理解、授業の満足度の4項目とした。さらに「授業について」の項目では、必修科目、出席回数、内容量、教員の熱意、教員の話し方、教材や資料の内容、シラバス、授業の進め方、課題などへの対応、授業の満足度の10項目とした。

III. 実施期間

アンケート実施期間は、下記に示す。

平成29年1月11日～1月30日

IV. 結果

35科目を対象とし、実施した。履修登録延べ人数2,049名に対し、回収人数は1,087名、回収率は53.1%であった。内訳では、1学年16科目、2学年は18科目、4学年は1科目であった。今回は、アンケート実施期間を後期後半であったため、3学年は対象から除外した。

各講義、演習の結果については、速やかに集計し、担当者に全体集計と共に送付した。

1) 各科目の履修登録及び回収結果について

科目別の対象者及び回収結果は、表1に示す通りである。

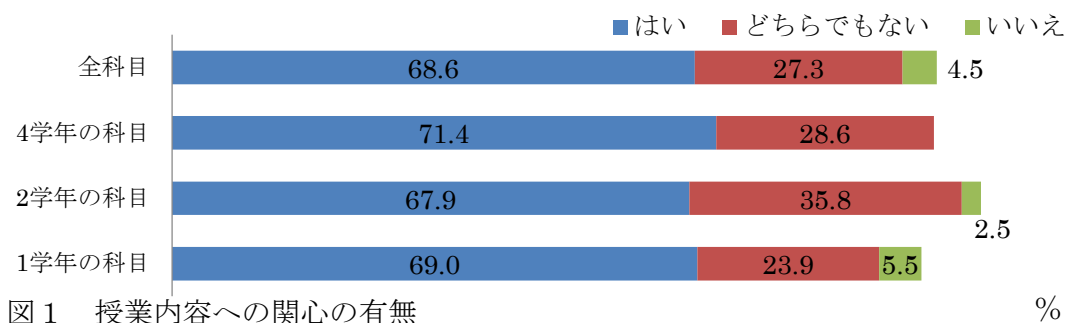
表 1

学年	科目名	履修登録者数(人)	回収人数(人)	回収率(%)
1	基礎演習	64	52	81.3
1	生物学 ※選択科目	59	50	84.7
1	統計学の基礎	65	48	73.8
1	社会生活とマナー	65	24	36.9
1	人体の構造 I	65	48	73.8
1	人体の構造 II	67	48	71.6
1	人体の機能 I	69	50	72.5
1	人体の機能 II	67	47	70.1
1	公衆衛生学	68	48	70.6
1	精神保健	68	58	85.3
1	看護学概論	67	48	71.6
1	医療・看護倫理	66	43	65.2
1	基礎看護技術論	74	39	52.7
1	基礎看護技術演習 I	76	44	57.9
1	看護対象論 ※選択科目	57	37	64.9
1	成人看護学概論	66	41	62.1
	1 学年計(延べ人数)	1063	725	68.2
2	成人看護学 I	54	27	50.0
2	成人看護学 II	56	3	5.4
2	老年看護学概論	55	26	47.3
2	老年看護学 I	56	31	55.4
2	小児看護学 I	55	15	27.3
2	母性看護学概論	55	17	30.9
2	母性看護学 I	58	28	48.3
2	精神看護学 I	57	31	54.4
2	在宅看護論 I	58	29	50.0
2	英語Ⅲ ※選択科目	23	13	56.5
2	疫学	56	14	25.0
2	保健統計学	56	13	23.2
2	研究方法論	54	16	29.6
2	看護過程論	55	22	40.0
2	基礎看護技術演習 II	58	28	48.3
2	家族看護学	57	16	28.1
2	公衆衛生看護学概論	56	0	0.0
2	個人・家族・集団・組織の支援	55	26	47.3
	2 学年計(延べ人数)	974	355	36.4
4	看護情報システム論 ※選択科目	12	7	58.3
	4 学年計(人)	12	7	58.3
	総計(延べ人数)	2,049	1087	53.1

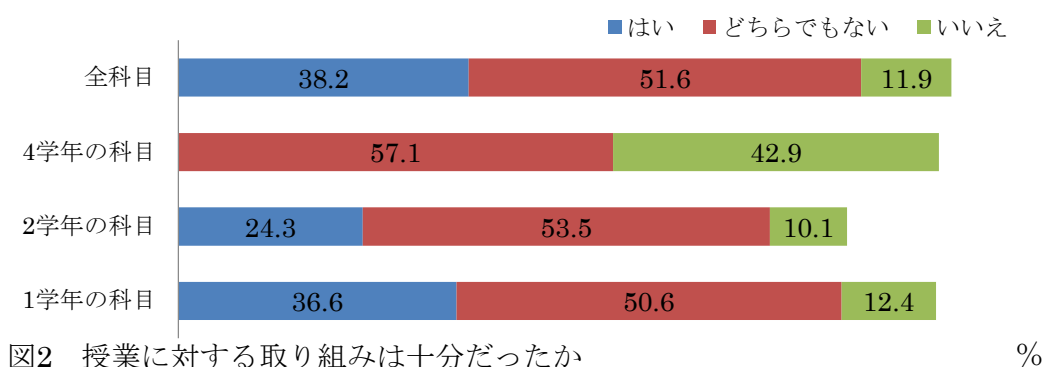
2) 質問項目別の結果について (図 1~16)

(1) 学生自身について

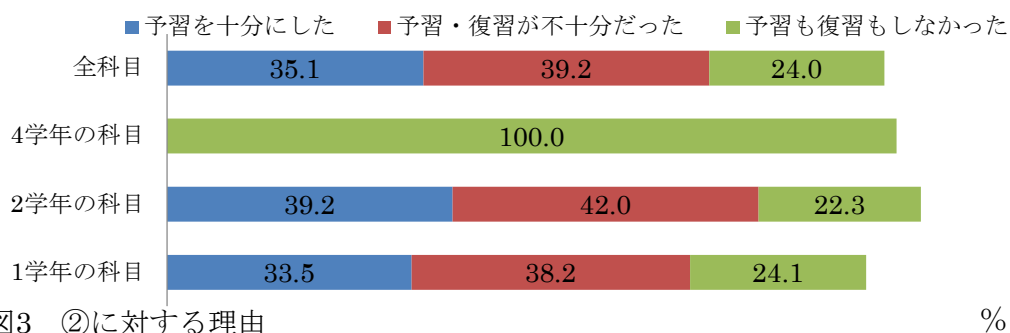
① 授業内容への関心について



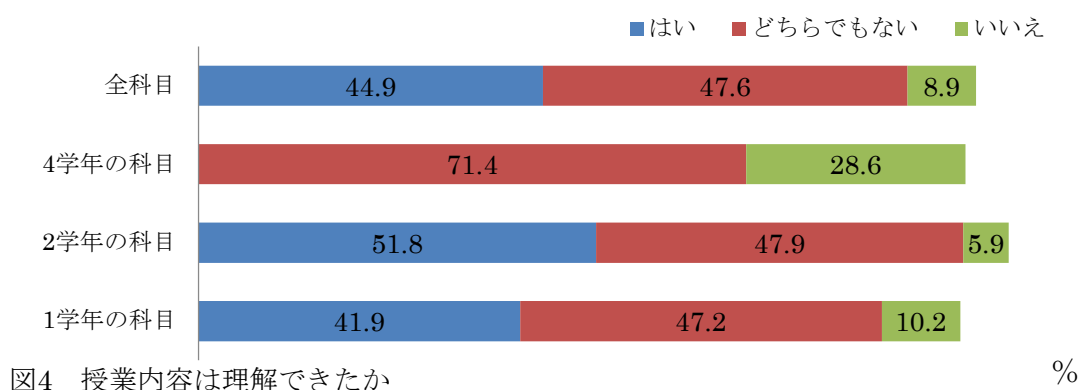
② 授業に対する取り組み方は、十分であるかについて



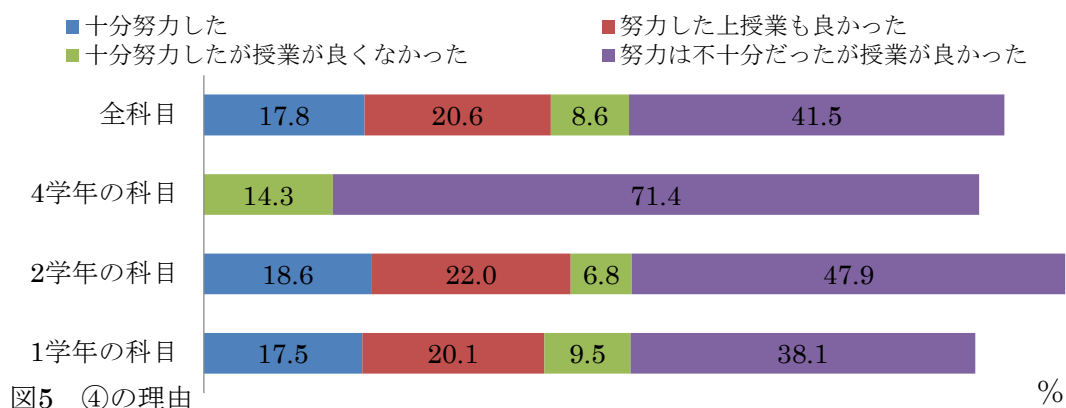
③②の理由について



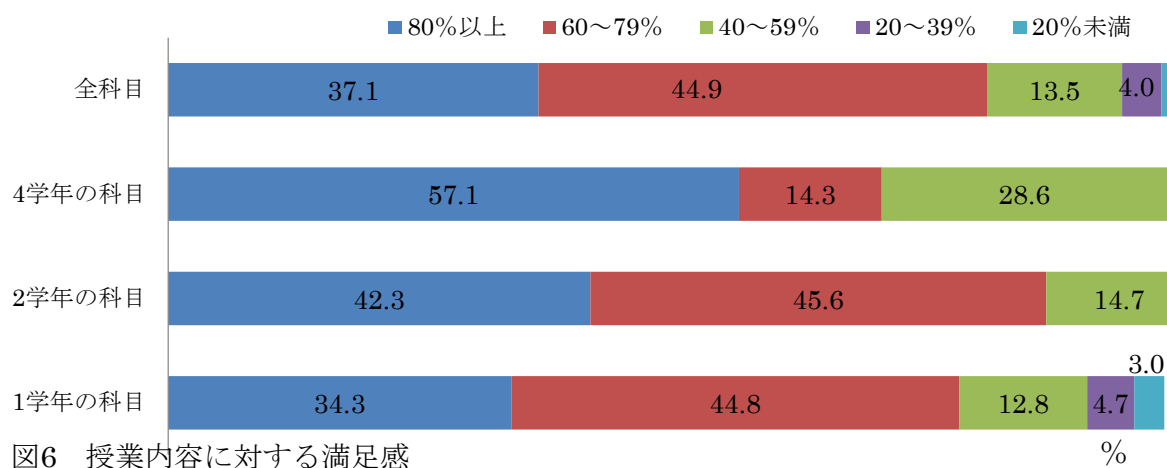
④ 授業内容の理解について



⑤④の理由について

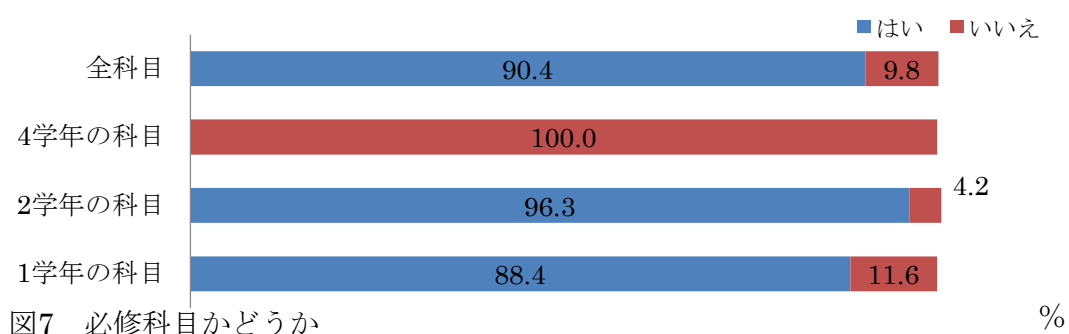


⑥授業内容の満足感について



(2)授業について

①必修科目の認識について



②科目への出席状況について（*選択肢4は、該当なし。）

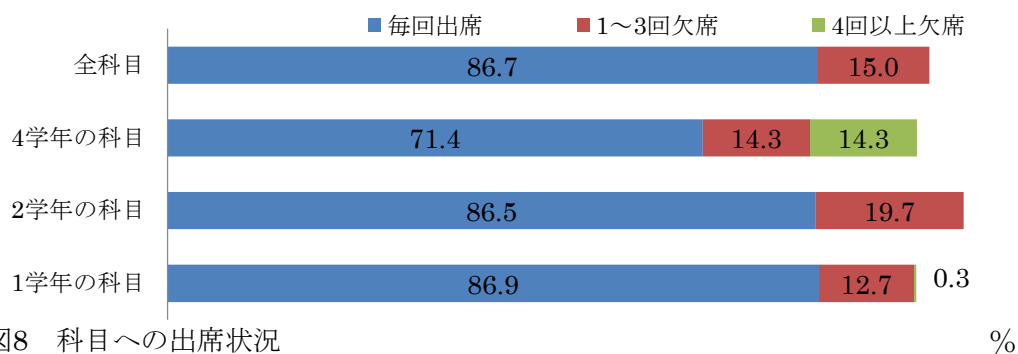


図8 科目への出席状況 %

③授業内容の全体量について

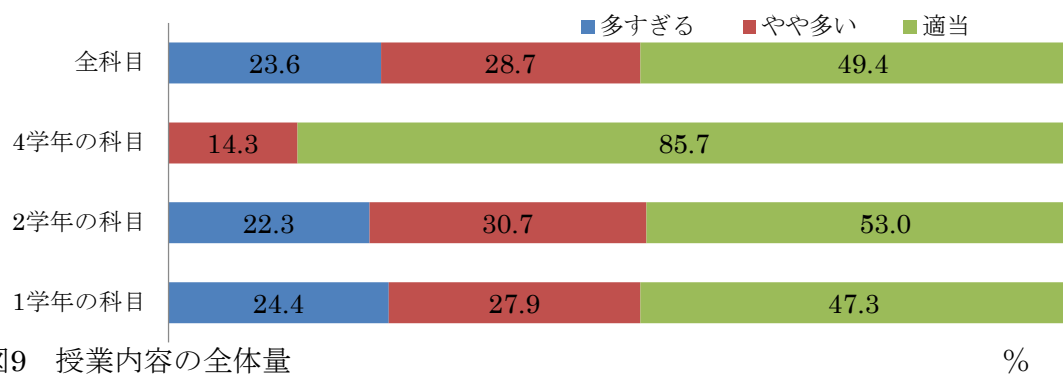


図9 授業内容の全体量 %

④教員の熱意について

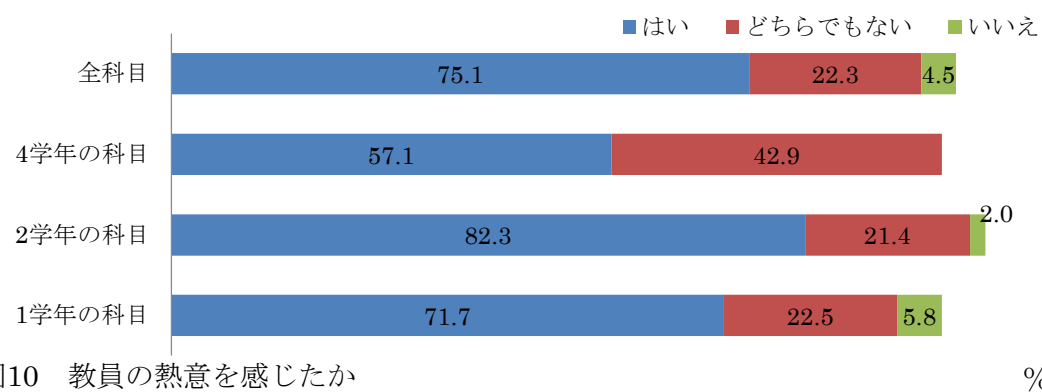


図10 教員の熱意を感じたか %

⑤教員の話し方や聞き取りやすさについて

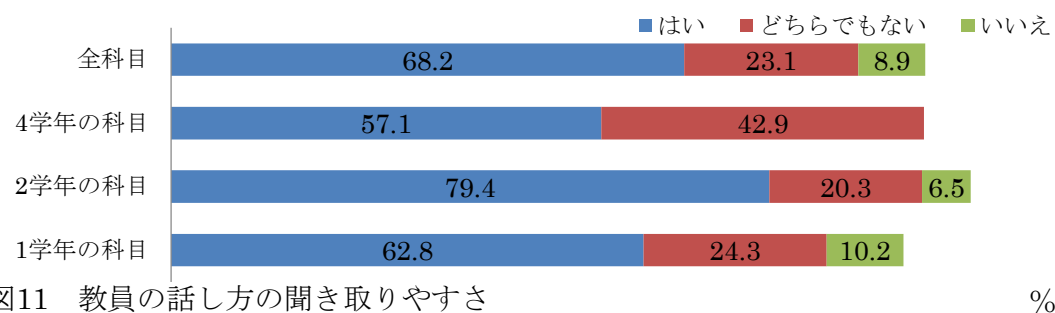


図11 教員の話し方の聞き取りやすさ %

⑥教材や資料は授業内容を助けるものであったかについて

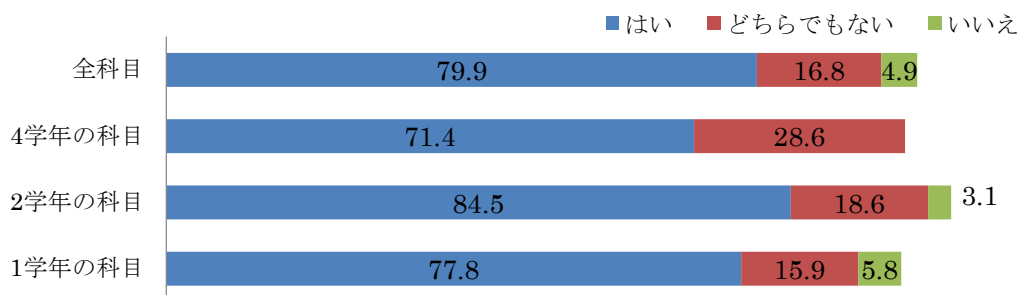


図12 教材や資料は授業内容を助るものだったか %

⑦授業はシラバスに沿っていたかについて

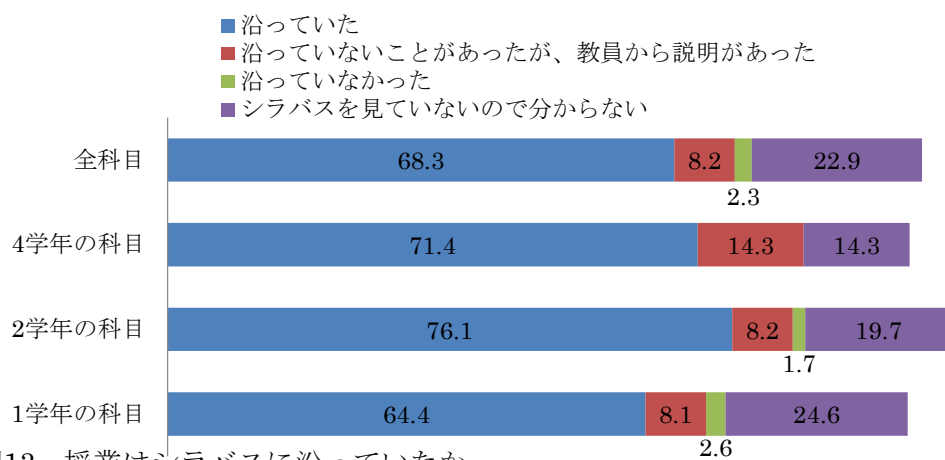


図13 授業はシラバスに沿っていたか %

⑧教員は学生の理解の程度を把握し、授業を進めていたかについて

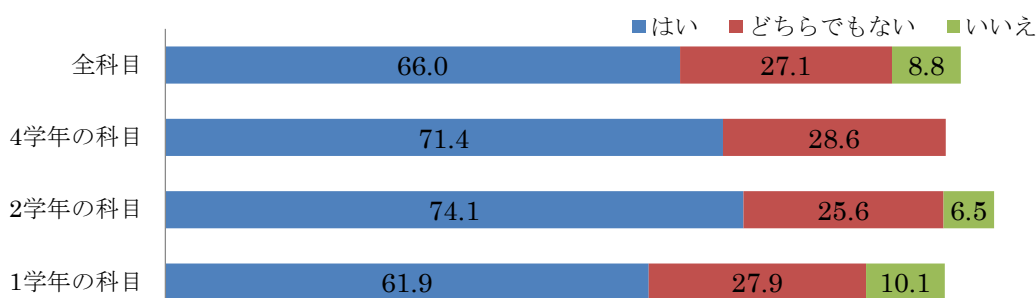


図14 学生の理解度を把握して授業を進めていたか %

⑨教員は提出した課題を適切に対応していたかについて

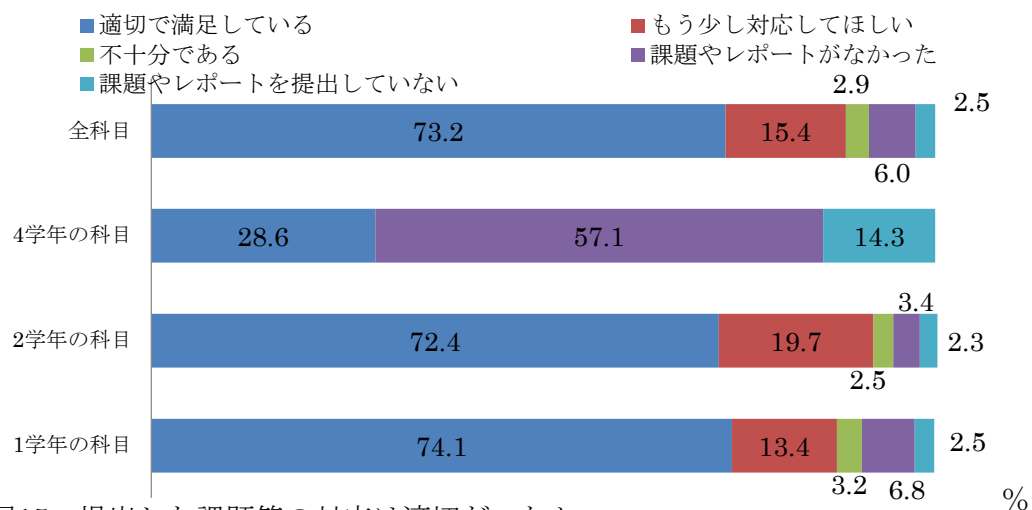


図15 提出した課題等の対応は適切だったか

⑩授業を受講してよかったかについて

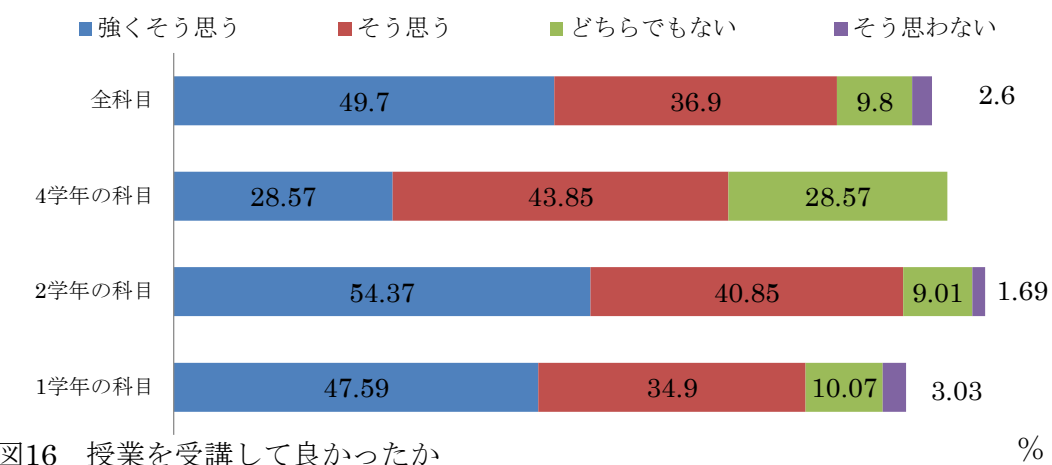


図16 授業を受講して良かったか

V. まとめ

今年度の授業評価は、前期科目・後期科目の授業評価を後期の授業終了時期に行った。

弘前学院大学看護学部看護学科の学生については、3 学年後期から 4 学年前期にかけて臨地実習期間にあるため、3 学年はアンケートの実施対象から除外した。

回収率は、科目によってばらつきがあった。また、全体の回収率は 50.3%であり、特に 2 学年の回収率が低い結果であった。

1. 学生自身について

- ・授業の関心については、1 年・2 年・4 年全体の約 6 割は、関心を持ち取り組んでいた。
- ・1 年・2 年・4 年全体の約 5 割の学生が授業に対する取り組み方は十分とは言い難い現状であった。その理由では、「予習または復習をしたが不十分だった」「予習も復習も殆どしなかった」が約 6 割の学生が該当していた。
- ・授業内容の理解については、1 年・2 年・4 年全体の 45%が理解できた様子であった。しかし、「どちらともいえない」が 47.6%であったことから、約半数の学生は、十分に理解できたとは言い難い様子であったため、改善が必要と考える。
その理由では、「努力は不十分だったが授業がよかったから」が 41.5%と 1 年・2 年・4 年全体の約 4 割を占めていたため、学生自身の自己学習の努力は少ないが授業内容で理解の補強ができていたことが考えられる。
- ・授業に対する満足感については、「80%以上」が 37.1%、「60～79%」が 44.9%であったため、概ね満足していた。

2. 授業について

- ・必修科目であるかどうかの認識については、1 年・2 年・4 年全体の約 9 割が認識できていた。
- ・授業の出席状況では、「毎日出席」が 86.7%と、1 年・2 年・4 年全体としても出席状況は良かった。
- ・授業内容の全体量については、1 年・2 年・4 年全体の約 5 割は「適当」であるとしていた。しかし、「多すぎる」「やや多い」と感じている学生が 1 年・2 年・4 年全体の約 5 割を占めていたため、授業の全体量が多いと感じている学生も半数近くいた。
- ・授業に対する教員の熱意は、1 年・2 年・4 年全体の約 7 割の学生が教員の熱意を感じていた。
- ・教員の話し方の聞きよりやすさについては、1 年・2 年・4 年全体の約 6 割強の学生が聞き取りやすかった様子であった。
- ・1 年・2 年・4 年全体の約 7 割の学生は、教材や資料は、授業を助けるものであったと感じていた。
- ・1 年・2 年・4 年全体の約 6 割強の学生は、シラバスに沿って進んでいたと感じていたが、約 2 割の学生はシラバスをみていなかった。
- ・授業の進め方について 1 年・2 年・4 年全体の学生約 6 割は、教員は学生の理解の程度を把握して授業を進めていたと感じていた。
- ・提出したレポートや課題に対しての対応(指導や評価)は、1 年・2 年・4 年全体の約 7 割の学生は適切で満足していると回答していた。
- ・受講して良かったかについては、「強くそう思う」「そう思う」を合わせると 1 年・2 年・4 年全体で約 8 割強の学生が受講して良かったと回答していた。

【編集担当者】

弘前学院大学看護学部 FD 委員会

葛西 智賀子

三上 聖治

宇田 宗弘

對馬 牧子

後藤 芙優子